

令和7年度 自己評価書・学校関係評価書

令和8年3月9日
真庭市立北房こども園
園長 横田 朝子 印

1 北房こども園の教育保育目標

○教育・保育目標

『心身ともに たくましく心豊かな子どもの育成』

○明るく元気な子ども ○友達と遊べる子ども ○考える子ども

2 本年度の重点目標（課題）

本年度の研究テーマ（重点的に取り組むこと）

「違いを大切に共に育つ場を～人・物・事 三つの観点で環境構成を見つめなおす～」

○ “のびのび” 一人一人が安心して生活できる環境づくり

- ・誰もが「大切にされている」と実感でき、安心して自分らしさを発揮できるように、一人一人を大切な存在として受け止め、認める。
- ・いろいろな個性をもつ園児一人一人を尊重し、自己肯定感をはぐくむ。
- ・一人一人の困難さを理解して、個へのアプローチだけでなく集団へのアプローチをしながら、互いに助け合える集団作りをする。
- ・人権や危機管理意識向上のための職員研修をする。

○ “わくわく” 園児の目線に立った、「やってみたい」とかかわりたくなる環境づくり

- ・個々の興味や関心に応じた遊びの環境づくり
- ・内面理解と教材研究を深め、園児の発達段階や興味関心に応じた遊びの環境構成をする。
- ・友達と十分にかかわることで広がる遊びや生活の工夫をする。
- ・一人一人が考えを深めたり、確かめたりする時間を保証し、チャレンジすることを楽しんだり、課題を解決する面白さを味わう活動になるように、援助や工夫をする。
- ・資質向上のための職員研修をする。（講師による研修2回を含む）

○ “にこにこ” 感性を豊かにする発達に応じた「心が動かされる」体験のできる環境づくり

- ・多様な体験のできる生活や遊びの環境づくりをし、一人一人の感じる心や表現する意欲を大切にする。
- ・園児が自然や季節に意識を向けられるように、掲示や展示の工夫をする。
- ・表現する喜びを感じられるように園児の発見やつぶやきに耳を傾け、共感する。
- ・保護者や地域ボランティアとの協力体制を整え、地域の良さや自然を活かした「うれしい体験」の機会を作っていく。

3 本年度 北房こども園 学校評価（自己・学校関係者）評価

評価指標	考 察	園総合評価 (自己評価)	評価委員評価 (学校評議員評価)
教育課程・ 指導計画	園の教育保育理念、目標を理解して指導計画を立て、記録や振り返り、語りあいながら保育の改善に努めた。五感を刺激する遊びをできる環境構成と共に、季節感を感じる自然物を取り入れたり壁面構成したりすることもできた。	3	4
行 事	年齢ごとの発達段階を考慮して行事の実施をした。それぞれの年齢のねらいを明確にして、園児にとってどんな体験ができるのかを考え、職員連携を取りながら進めることができた。	4	4
組織・運営	経営計画をベースに職員一人一人を尊重し、それぞれの得意なことが活かせるように、組織作り・園運営をしてきた。職員が自分の役割を果たし、協力し合う関係性が構築できた。	4	4
学級経営	一人一人の園児に寄り添い、内面理解を保育の基本としながら温かい人間関係を構築し、自己発揮できる場を作ることができた。	4	4
特別支援教育	個々の困り感を理解しようと努め、援助や環境作りをしてきた。丁寧に保護者との話し合いをもち、関係機関との連携を図りながら進めてきた。	4	4
安全管理・ 保健指導	園児が安全・健康に互いに気持ちよく過ごすための必要な約束など、発達段階に応じて知らせたり考えたりできるようにした。園内の安全点検を定期的に行い、災害や事故を想定して職員研修を行い職員の資質向上に取り組んだ。避難訓練、交通安全指導も毎月行っている。	4	4
研修 (資質向上)	園外研修（延べ159回参加）、園内研修（25回実施）。園外研修は参加に個人差があるが、園内復命で補っている。講師による園内研修（2回）を受けたことで、幼児理解や環境構成、援助についてより深く学ぶことができた。	3	3
情報提供・ 保護者・ 地域との連携	毎日のドキュメンテーション配信（写真を含む）、園児送迎時の対話を中心に保護者と、園児の育ちを共有し、共に喜んだり課題について一緒に考えたりしてきた。アプリを通しての情報共有	4	4

	が便利である一方、園からの連絡が見落とされることや双方向のやり取りの難しさがあり、コドモンのより良い運用を今後も検討していく。絵本読み聞かせ、行事への参加など、地域の方に協力していただくことで、職員以外の方と触れ合うことができ園児の体験が広がった。計画的な個人懇談に加え、必要に応じて個別面談を行うことで、連携を図ることができた。		
小学校との接続・連携	園児と児童の交流活動は実施できた。交流の質向上のため、互惠性のある活動を年度当初から計画することで見通しをもった交流にしたい。また、スムーズに就学につながるように園からの積極的な情報提供、相談を行った。	4	4
子育て支援	配信や掲示による情報提供や、保護者も一人一人違うことを意識して、必要な時に安心して相談のできる関係づくりに努めてきた。	4	4
食育の推進 (給食)	野菜栽培を通して、育てることや食すことの喜びと美味しく食べられることへの感謝の気持ちがもてるようにしている。また、季節を感じる行事食や毎日の給食写真掲示等、保護者と子どもが食材や献立を話題にしやすく、食事に関心が向くようにしてきた。	4	4
食事の提供 (調理)	職員は衛生管理、体調管理をして、安全に調理できるようにしている。アレルギー児や特別な配慮を要する園児も喜んで食べられるように、調理担当者が工夫を凝らしている。また、配慮の必要な園児については定期的に関係職員で会議をもち、安全に配慮して給食提供ができるようにしてきた。行事等で、園児とのコミュニケーションを図ることでより給食を楽しみに、感謝して美味しく食べることができるようになってきた。	4	4

4 その他必要な評価

評価指標	考 察	園総合評価 (自己評価)	評価委員評価 (学校評議員評価)
信頼される職員	園職員として、正しい言葉遣いや態度に気をつけるよう意識し、明るい挨拶と笑顔の対応を心がけた。	4	4

健康な心と体	職員自身の感染予防に努め、体調に留意し、健康な状態を保つようにした。また、信頼関係を軸に協力することができるよう、各自が職員間の良好な人間関係作りができています。	4	4
--------	-----------------------------------------------------------------------------------	---	---

5 本年度の重点課題及び総合的な評価結果の考察等（学校関係者評価委員総合所見含）

- 職員は幼児理解を基盤にして、園児一人一人が安心して自己を発揮し、落ち着いた生活が送れるように日々の保育を意識して行ってきた。温かい雰囲気の中で、個人差を受け入れ、発達段階を考慮しながら生活習慣の自立を促し、「できた」という経験や喜びが自信につながるように、認めたり励ましたりしてきた。園児と職員との信頼関係も深まり、遊びや生活に主体的に関わろうとする園児の姿が多く見られるようになってきている。
- 昨年度の課題であった「園児の感性を刺激できるような環境づくり」については、季節ならではの水遊びや雪、氷、木の実など自然物に触れて遊ぶことや、いろいろな感触を味わえる素材を用いた手作りおもちゃなど発達に応じた環境構成をしてきた。また日々の生活の中で、職員自身が園児と一緒に楽しい、うれしい、おもしろい、悲しい等いろいろな感情を共有して共感しながら過ごすことを意識して保育してきた。引き続き幼児理解や教材研究など研修をしながら環境構成を工夫していきたい。
- 園児が興味をもち、してみたいくなる、挑戦したくなる、遊びこめる環境を構成するため、自ら選んだ遊びについて、各クラスのみでなく3歳以上児と3歳未満児のグループや園全体で検討会議を設けて環境構成をしてきた。話し合う時間の確保が一番の課題となるが、より良い保育を作るための大切な時間と位置づけて、研修時間の確保をしていきたい。
- 終礼等で、学年を越えて園児の良さや成長、を共有できている。情報共有ができることで、担任以外の職員も、登降園時に保護者へ具体的なエピソードなどを交えて成長を伝えることができています。真庭市全体として連絡帳機能のコードモン移行もあり、双方向での情報提供の仕方を検討している。
- 今年度も小中学生、地域の方と触れ合う活動ができた。職員とは違う地域の方の暖かな心遣いや気持ちに触れることは園児にとっても心地よく、心が動く体験をすることができた。地域からのお声がけいただけることに感謝している。これからも地域の方を含め、園外の方の協力をいただきながら様々な人と関わる事のできる直接体験を増やしていきたい。
- 研修については（参加するために代わりに入る）人が足りていない。代わりに人がいないのは子育て支援課の課題。
- 保護者からの意見となりますが、子どもが家庭ではできない体験ができてありがたいです。こども園でやったことが楽しくて、家庭でもやることが多いです。
- 北房こども園の在る地域は豊かな自然に囲まれた場所です。その地域の良さをしっかりと活かしながら、それが子ども達に良い刺激となって、豊かな心作りに生かされていると感じました。子どもが感じる先生たちの“安心”や“楽しさ”“面白さ”は子ども達の顔が物語っています。大切な子どもを安全に預けて働けることだけでも親御さんにとってはありがたいことで、その中にも様々な創意工夫をされて、より魅力的な人間として成長できるように努力されている事は大変素晴らしい事だと思います。

6 評価結果・考察（学校関係者評価委員総合評価）を受けての具体的改善方策等

- 子ども達の豊かな体験のために、次年度は講師を依頼して自然遊びなどの直接体験を計画しています。園外に出かけることの難しい3歳未満児にも体験ができるように内容を検討しています。
- こどもの成長や相談など、今年度難しさを感じた普段送迎のできない保護者との情報共有やり取りも細やかにできるように、コドモンアプリの連絡帳機能を利用して行く予定です。
- 引き続き、毎日のドキュメンテーションや「こども園だより」等での子ども達や園の様子、日々を健康に過ごすための情報発信や災害時の安否連絡など等、保護者や地域の方の安心や信頼に答えられるように情報発信していきたい。